



## 指導員に求められる能力

群馬県自動車教習所 教習指導員 傘木 駿

群馬県自動車教習所の傘木駿といいます。出身地は自然が豊かな長野県上田市ですが、縁があって群馬県で働くことになりました。

入社した当時、群馬県は初心運転者の事故率が高く全国ワースト一位、しかもそれが何年も続いていることを知り大変驚いたことを今でも鮮明に覚えています。私はその時以来、群馬の教習所指導員として、このような汚名を返上することが使命だと思い、指導員の一人として初心運転者事故や違反の防止を目標にして、日々の教習業務に尽力してきました。

ところで、私が指導員として悲惨な交通事故を減らすために具体的に何ができるのか考えた時、一番大事なことは教習生との信頼関係を高めて分かりやすい教習をすることだと思いました。何故なら教習生との信頼関係が生まれれば教習生が私の話により傾聴するようになり、安全意識や危険な運転について理解が深まると考えたからです。そして、理解したことを常に思い出しながら運転すれば交通事故防止に繋がると感じたからです。



卒業していく教習生の運転技術や法令等の知識には大きな差はありません。差があるとすれば、交通社会に出ていく初心運転者に安全意識があるのかないかの違いです。その差を埋めるために指導員に求められることは、運転の仕方を単に教えるだけでなく、それぞれの教習生に合った「伝え方」です。

指導員のちょっとした言葉違いや表現方法の違い等は、教習生が安全運転を続けられるかどうか将来にわたって大きく影響します。また、教習生のモチベーションは日によって変わるので、指導員には「伝え方」以外に教習生の「心を見る力」が求められます。指導員として適正教習に努めることは当然ですが、これらの「力」を発揮して、生涯安全運転をするための意識付けを行っていきたいです。



この機会に改めて研鑽を積み、更に指導員としてスキルを上げていこうと思いました。